「環境問題が企業の明暗を分ける」

Environmental Preservation :Key Issue for Moving Forward

常務取締役
生産本部
青木照行
Teruyuki
AOKI

日頃は、「塗料の研究」をご愛読賜り誠にありがとうございます。

2000年と言う区切りの年をY2K問題という新たな不安を抱き迎えた訳ですが、事前の対応も功を奏し、大きな問題もなく乗り越え無事稼動致しました。関係各位の皆様方に深く感謝いたします。

さて、1997年のタイ・バーツの暴落に端を発し、東南アジア諸国・我が国を巻き込んだ景気低迷もやっと底をついたと言われています。しかし、塗料生産の立場から見ますと、日本の景気を引っ張っている業界は、塗料の使用量の少ないIT関連に代表されており、1997年実績にほど遠い状態であります。

このように塗料を取り巻く厳しい状況の中で、「地球環境問題」が付加され、経営の舵取りが難しい時代になって来ました。来る21世紀は、「環境の世紀」と言われており、環境への取り組みは企業戦略の最重要課題であります。

まず第一に、COP3（気候変動枠組み条約締結国京都会議）以降、地球温暖化対策が企業に課せられています。当社は、1995年JRCC（日本レシポンシブル・ケア協議会）設立と同時に加入し、年率1%減の目標を立て省エネルギー活動を展開していますが、水管ボイラーのガス式貫流ボイラーへの変換、省エネ設備の導入などにより成果を上げています。

また、レシポンシブル・ケアの推進を確実なものにするため、ISO-14001環境システムの認証取得活動を推進し、当社鹿沼工場および平塚工場において認証を取得しました。残る三工場（尼崎、小野、名古屋）についても現在活動中であり、近々認証取得の予定であります。

第二に、資源の循環型社会に向けた取り組みであり、産業廃棄物の削減はもとより、再利用が重要な課題であります。当社では、省エネルギーと同様に産業廃棄物の削減目標年率5%を掲げ、ゼロエミッション化を指向した活動を推進すると共に、資源のリサイクル、リユースの研究に注力しています。

本誌でも新技術開発として掲載していますが、廃塗料のリサイクルシステムの開発、稼動を始め、「回収PET」のアルキド樹脂製造への利用技術の確立など、資源のリサイクル、リユースに積極的に取り組んでいます。

第三に、特定化学物質管理促進法（PRTR法）が施行されますと、届出・削減等が義務づけられますが、何よりも増してこの種の物質を削減した環境にやさしい塗料の研究開発・提供が急務であります。

当社の誇る技術スタッフの弛まぬ努力により、既に実用化したもの・研究中のものなどタイムリーに提供して行く所存であります。

今後ともよろしくご指導・ご支援を賜りますようお願い致します。